

音楽科教育 実技・理論研修会 終了報告

テーマ	ときめき つながり ひびきあう心を ～音楽的な見方・考え方を働かせ 深め合う多様な学習活動のあり方～ ○子ども達に音楽の楽しさやひびきあいを体感させるために授業の中で実践できる合唱指導・発声法の実技研修 ○小学校・中学校ともに合唱をつくる上でポイントとなることの理論研修	
日時	令和6年6月28日(金)	
会場	江別市立中央小学校	
講師	尾崎 あかり 氏 (日本合唱指揮者協会会員、札幌合唱連盟任命理事、NHK 全国学校音楽コンクール北海道地区審査員 他)	
参加者	58名	
研修会の様子		0. 講師紹介 1. よい合唱とは何か？ どんな合唱が良い合唱か。「心が動く」という言葉が印象的だった。歌う側はもちろん、聴く側も。 2. 時間の使い方 1時間の授業の中で、どのように合唱を組み立てていくのか。総時間の少ない音楽の授業だからこその視点だった。
		3. 準備運動 ストレッチや、呼吸等、簡単にできる準備運動の例。また、授業の切り替えの意味でもストレッチは効果的なのだという。 4. 体の使い方 スクワットをしながら歌唱することで、支えを実感しながら歌唱できた。息が長く続き、楽に発声ができた。 5. 発声練習 大きな音や、多くの音はいらない。自分たちの声が聞こえるように発声をする。口を縦に開けることで、音色が大きく変わることも体感できた。
		6. 歌唱指導 「翼をください」「COSMOS」を題材に実際に歌唱しながら指導していただいた。 パートバランスの話では、ソプラノよりもアルトを多めに配置すること、音取りのポイント、フレージング、ブレスの位置等、普段の疑問を解決できる内容になっていた。 7. その先
		☆質問 Time 3名の参加者から、普段の活動での疑問点や、悩みについて質問があった。 身近な悩みの中から、今後の合唱のヒントを得ることのできた貴重な時間になった。